

第5章 健康増進計画の取組

第5章 健康増進計画の取組

1 健康管理

スローガン 受けよう健診！

目標：市民が定期的に健診，がん検診を受け，自分の身体を知り，よりよい生活習慣を実践しています

現 状

主要な死亡原因であるがんや循環器疾患に加え，重大な合併症を引き起こす恐れのある糖尿病，死亡原因として急速に増加することが予測される慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の生活習慣病を早期に発見し，治療や生活習慣の改善につなげることが重要です。

本市の国保特定健診受診率は増加していますが，40.7%にとどまり，がん検診の受診率も低い状況です。アンケート結果によると，1年以内に健診（総合集団健診，学校や職場での健康診断，人間ドック等）を受けた人の割合は，男性で73.2%，女性で64.1%であり，女性で低くなっています。また，青年期，高齢期で低くなっており，若い世代では未受診の理由として健診の必要性を感じない，受け方がわからないとの回答があがっています。

また，アンケート結果においても，健診において何らかの指摘を受けた人のうち22.5%が特に何もしていないと回答しています。

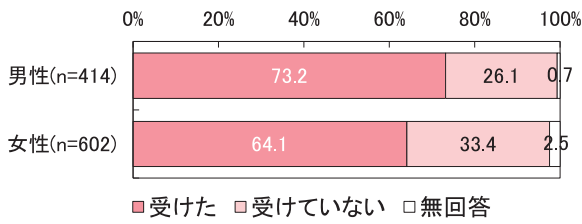
一方，認知症については，今後，高齢者の増加に伴い，認知症の高齢者がさらに増加することが見込まれます。アンケート結果によると，認知症が予防できると知っている人は57.4%となっています。

[国保特定健診・特定保健指導の実施率]

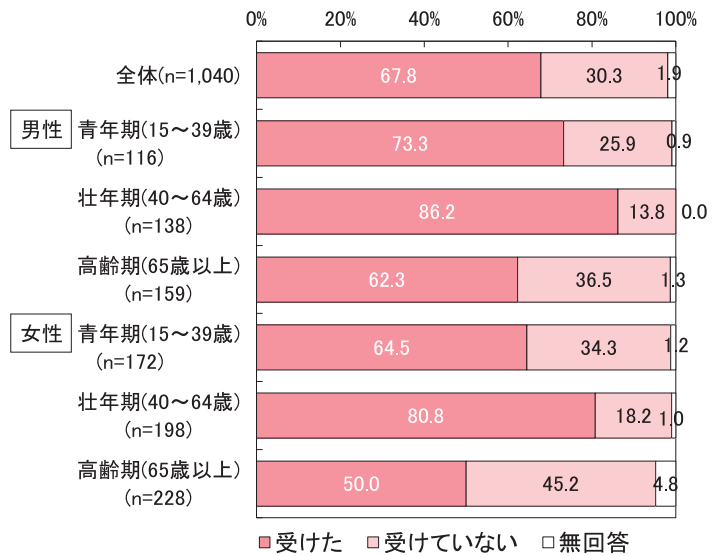
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
国保特定健診受診率	31.3%	31.1%	33.4%	40.7%
国保特定保健指導実施率	18.4%	14.1%	17.8%	19.9%



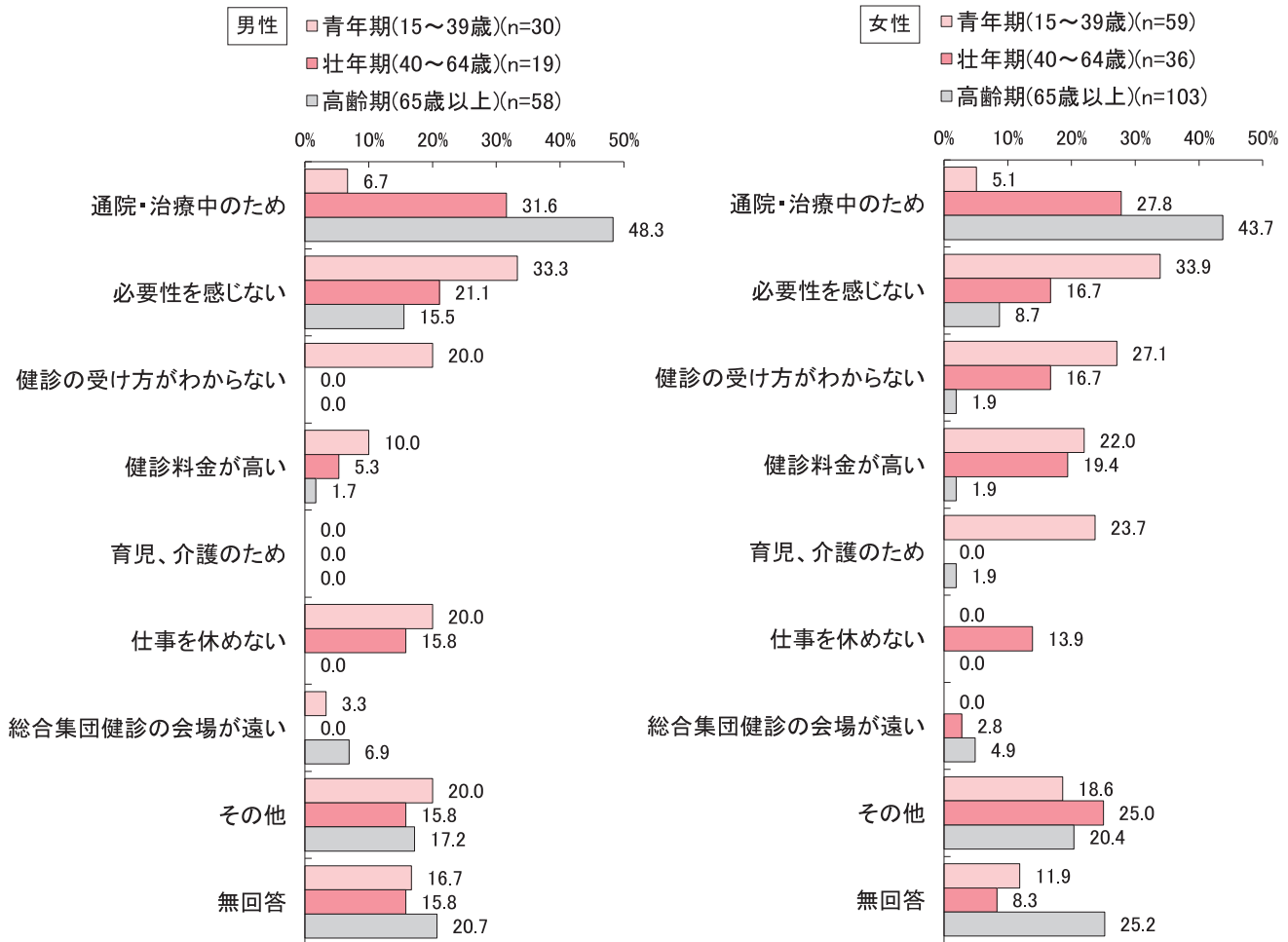
[1年以内の健診の受診状況/性別]



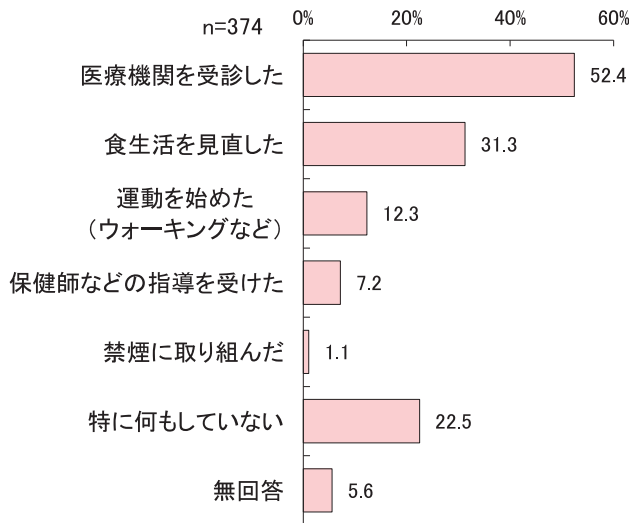
[1年以内の健診の受診状況/性・年齢別]



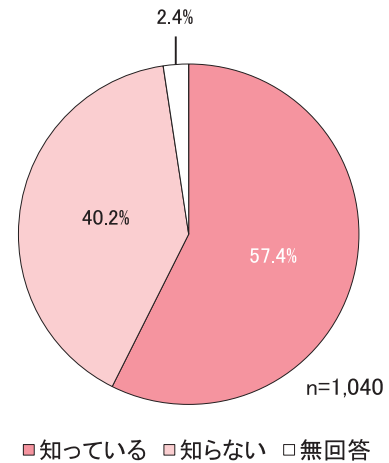
[健診を受けていない理由/性・年齢別]



[指摘されたことについて医療機関の受診や生活習慣の改善に取り組んだか]



[認知症が予防できることの認知度]



資料：健康に関するアンケート調査 (H29)

課題

- 国保特定健診受診率は上昇していますが、目標値には達していません。
- がん検診の受診率は上昇していますが、目標値には達していません。
- アンケート結果では、健診の必要性や受診方法が十分に周知されていません。
- 国保特定保健指導の実施率は目標を大きく下回っています。
- アンケート結果では、健診において何らかの指摘を受けた人のうち、約2割の人が医療機関の受診や生活習慣の改善に取り組んでいません。
- 生活習慣病予防教室（ヘルスアップ教室）では参加者が固定化しており、生活習慣の見直しが必要な人の参加が少ない現状があります。
- がん検診の精密検査結果の未把握等があり、がん検診の精度管理体制が不十分です。
- 認知症予防についての理解は十分に進んでいません。

今後の取組

(1) 健診の受診率向上と保健指導の充実

- 健診の必要性を啓発するとともに、健診未受診者への受診勧奨を行い、受診率の向上を図ります。過去の受診歴を参考にするとともに、受診勧奨の工夫を行います。
- 個々の健康状態や生活状況に応じた保健指導に重点を置いた取組を推進します。
- 総合集団健診において、保健指導や栄養指導の充実を図ります。
- 生活習慣を見直すことができるよう媒体の工夫を行い、普及啓発や情報提供の充実を図ります。

(2) 生活習慣病予防および重症化予防の推進

- 「みよしウェルネスプログラム」を活用した、生活習慣病予防に取り組みます。

みよしウェルネスプログラム

通信計測機器を使って健康状態を見える化することにより、運動意欲を高め、目的に応じた運動や食の取組へつなげていくためのプログラムのことです。

- 民間や各地域の運動教室、健康教室等の情報を提供します。
- 高血圧対策として、「健塩プロジェクト」と連動した取組を推進します。
- 糖尿病対策として、専門医療機関・かかりつけ医と連携した糖尿病重症化予防事業を実施し、糖尿病の合併症を予防するための保健指導を行います。
- 世界糖尿病デー（11月14日）に合わせた啓発を行います。

健 塩

健康を維持するための適切な塩分のとり方のことです。

本市では生活習慣病予防(特に高血圧予防)のための「減塩と野菜摂取増加の取組」の合言葉として使います。

キャッチフレーズは「上手に減らして、おいしく食べて、健康になろう」。

- 認知症予防対策として、高血圧や糖尿病等の生活習慣病の予防が、認知症の予防につながることを啓発を行います。
- 物忘れ相談プログラムを活用し、三次地区医師会等の関係機関と連携しながら、認知症の予防に取り組みます。

(3) がんの予防と検診受診率向上の取組

- 広島県がん対策推進計画に基づき、がん検診の必要性の啓発を行うとともに、がん検診を受ける機会を増やし、がん検診受診率の向上とがんの早期発見に取り組みます。
- がんを早期に発見し適切な治療を行うことで、がんによる死亡を減少させるため、「精密検査（要精検）」となった場合には、確実に精密検査を受けるよう啓発を行います。
- がん検診の精度を管理するため、健診医療機関との検討会議や運営委員会を立ち上げ、体制を整備します。

目標指標

指標		実績 (平成29年度)	目標値 (平成35年度)	目標値設定の根拠
国保特定健診の受診率	40～74歳	40.7% (平成28年度)	60.0%	国の目標値を参考
国保特定保健指導の実施率	40～74歳	19.9% (平成28年度)	45.0%	国の目標値を参考
メタボリックシンドローム 該当者・予備群の割合	40～74歳	28.1% (平成28年度)	20.9%以下	国の目標値を参考
がん検診受診率	40歳以上	4.6% (胃がん)	50.0%	県の目標値を参考
		9.1% (肺がん)	50.0%	
		10.2% (大腸がん)	50.0%	
		13.2% (乳がん)	50.0%	
	20歳以上	15.9% (子宮がん)	50.0%	
自分の適正体重を知っている人の割合 (健康に関するアンケート)	15歳以上	73.0%	80.0%	
認知症が予防できると知っている人の割合 (健康に関するアンケート)	15歳以上	57.4%	80.0%	



2 身体活動・運動

スローガン まめに動こう！

目標：市民が日常生活の中でこまめに体を動かし、ウォーキング等自分にあった運動を続けています

現 状

身体活動とは日常生活で身体を動かすことをいい、運動とは、身体活動のうち、スポーツなど健康・体力の維持増進を目的として計画的、意図的に行うものです。身体を動かすことは、循環器疾患やがんなどの生活習慣病の発症リスクを低下させるだけでなく、心身のリフレッシュになり、ストレス解消や良質な睡眠につながります。

また、運動器機能の低下や認知症等を予防する介護予防（フレイル予防）のためにも若いうちから積極的に身体を動かす習慣を身につけておくことが大切です。

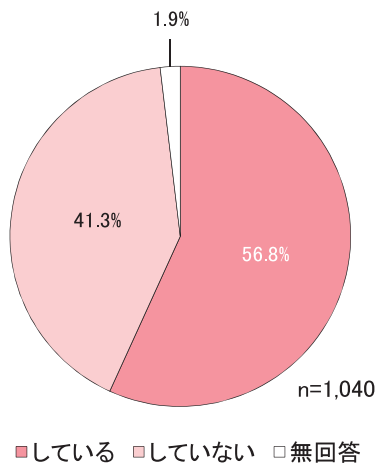
アンケート結果によると、健康のために意識して身体を動かすようにしている人の割合は56.8%、運動を習慣化している人の割合は40.3%となっており、本市がその環境づくりに重点的に取り組んできた散歩・ウォーキングを行っている人の割合が最も高くなっています。

一方、運動を習慣化している人の割合は、女性青年期、壮年期で低くなっており、運動していない理由として時間がないとの回答割合が最も高くなっていますが、自分に合った運動がわからない、一緒に運動する仲間がないとの回答もあがっています。

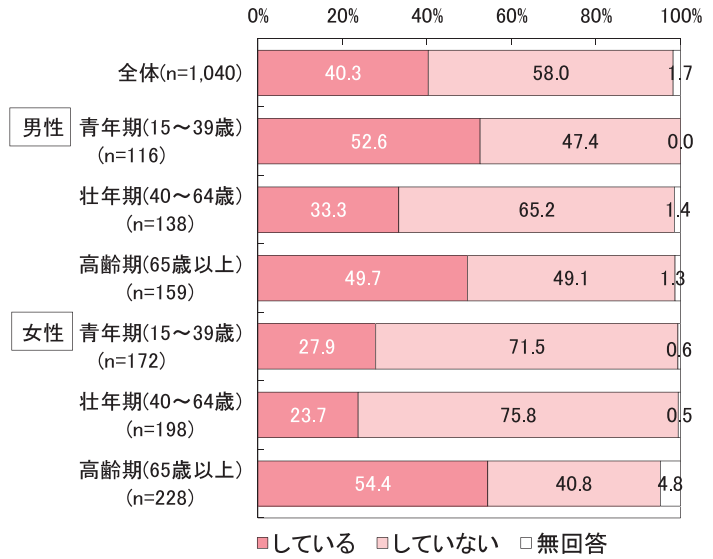
また、「介護予防ラジオ体操」を「元気はつらつラジオ体操」に名称を変更し、各ライフステージへの啓発を行ってきました。体操を知っている人の割合は42.8%で、前回より上昇しましたが、実践している人の割合は低くなっています。



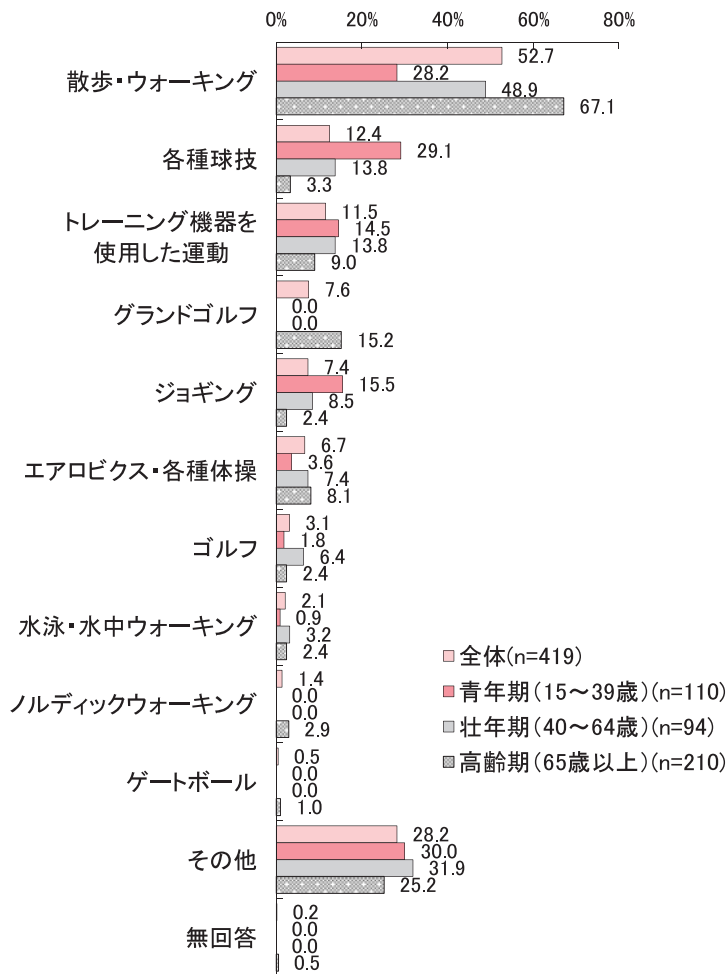
[日常生活で意識して身体を動かしているか]



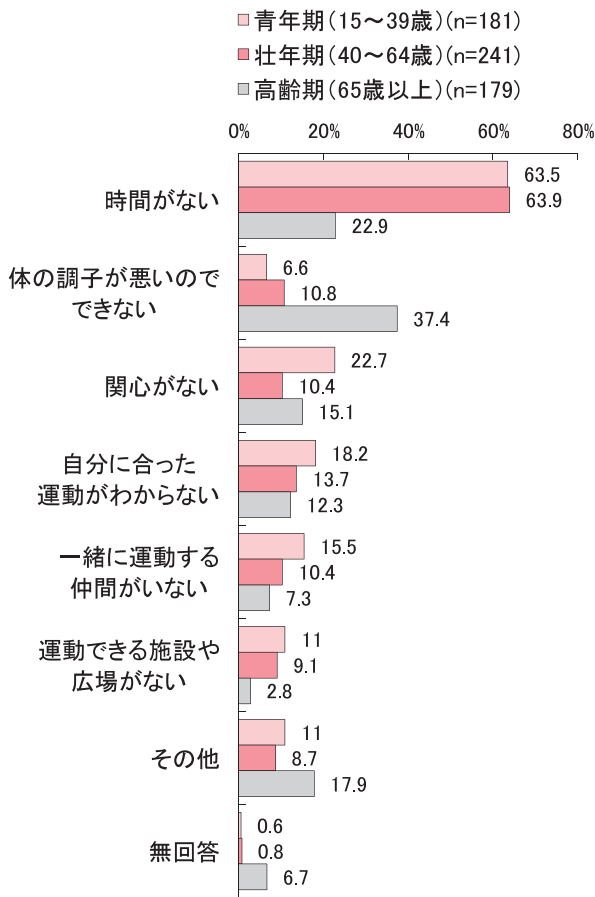
[運動の習慣/性・年齢別]



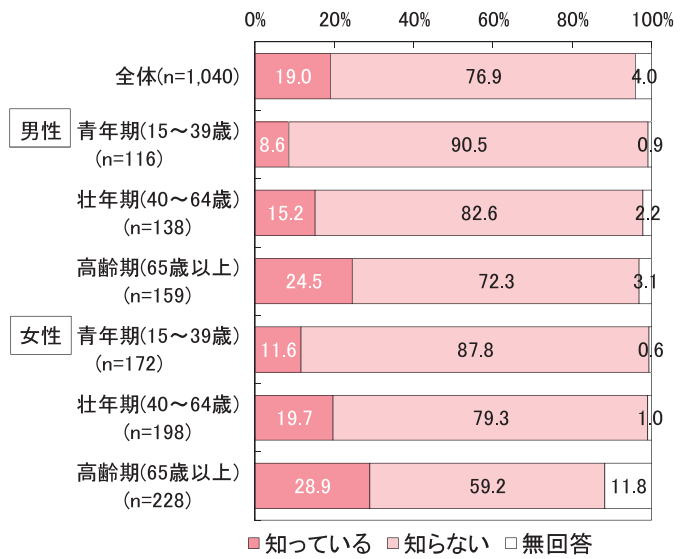
[運動の種類/年齢別]



[運動をしていない理由/年齢別]

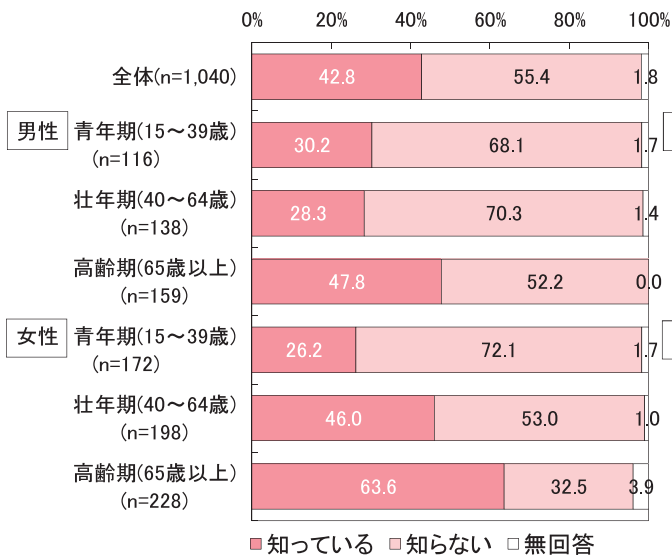


[みよしウォーキングの日の認知度/性・年齢別]



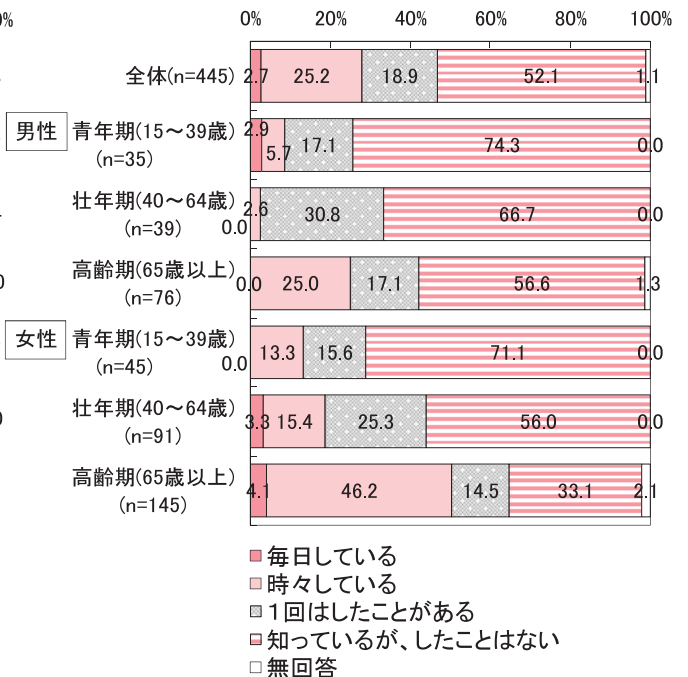
[元気はつらつラジオ体操の認知度

/性・年齢別]



[元気はつらつラジオ体操の実践状況

/性・年齢別]



資料:健康に関するアンケート調査(H29)

課題

- 運動を習慣化している人、日常生活で体を動かすことを心がけている人の割合に大きな伸びはみられません。
- 運動していない理由として自分に合った運動がわからない、一緒に運動する仲間がいないと回答する人がいます。
- 「元気はつらつラジオ体操」の認知度は上昇していますが、実践に結びついている割合は低くなっています。
- 「みよしウォーキングの日」の認知度は低くなっています。

今後の取組

(1) ライフステージや目的に応じた運動の推進

- 正しい知識をもち、それぞれの体力や年齢、目的に応じた運動を推進します。また、元気はつらつラジオ体操、みよし健康づくりマップ、ストレッチのリーフレット等を活用し、自分に合った運動を行うことを促進します。
- 歩くことは健康づくりに有効な身体活動であり、誰でも気軽に行えることから、ウォーキングコースなどの環境整備や各種ウォーキングを推進します。
- 「みよしウォーキングの日（毎月第3土曜日）」の取組の啓発を行います。
- 市内3か所の温水プールを活用した水中ウォーキングの普及を図ります。

(2) ICTを活用した運動プログラムの推進

- 市内11か所のトレーニング拠点施設の活用と、運動の習慣化を図るため、体組成計や活動量計のデータ測定による健康状態と目標を見える化する、「みよしウェルネスプログラム」を構築します。
- トレーニング拠点施設において、個人の運動を支援する健康教室や講座を開催します。
- 仕事や子育てをしている世代等に健康を意識してもらうことを目的に、「みよしウェルネスプログラム」を活用し、個人、グループ、職域での運動の取組を支援します。
- バーチャルウォーキングや歩数イベント等において、行動変容やモチベーションの維持向上を図ります。

(3) 運動を継続できる環境づくりの取組

- 身体を動かす楽しさを実感し、興味が持てるよう、トレーニング拠点施設を気軽に使用できるよう取組を行います。
- 運動が継続できるよう、健康づくりサポーターやウォーキングマイスター等の身近な人からの口コミで、一緒に運動をしたり、情報を共有できる仲間づくりを支援します。

- 元気はつらつラジオ体操の効果等を学び、実践や継続につなげるための人材を育成し、地域で普及啓発を行います。
- チャレンジデーの取組を通じて各団体や実行委員会と連携し、運動習慣のきっかけづくりを行います。

チャレンジデー

年齢・性別を問わず、日常的なスポーツの習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的とした住民総参加型のスポーツイベントです。毎年5月の最終水曜日に開催され、人口規模がほぼ同じ自治体間で、午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して運動やスポーツを行った住民の数(参加率)を競います。

目標指標

指標		実績 (平成29年度)	目標値 (平成35年度)	目標値設定の根拠
運動を習慣化している人の割合 (健康に関するアンケート)	15～64歳	32.4%	40.0%	国の目標値を参考
	65歳以上	52.2%	65.0%	
日常生活で身体を動かすことを心がけている人の割合 (健康に関するアンケート)	15～64歳	48.9%	65.0%	国の目標値を参考
	65歳以上	69.7%	80.0%	
元気はつらつラジオ体操を知っている人の割合 (健康に関するアンケート)	15～64歳	33.8%	43.8%	10%以上の増加を見込む
	65歳以上	57.0%	67.0%	
元気はつらつラジオ体操を実施している人の割合 (健康に関するアンケート)	15～64歳	12.7%	22.7%	10%以上の増加を見込む
	65歳以上	42.4%	52.4%	
チャレンジデー参加率		56.6%	60.0%	三次市スポーツ推進計画



3 歯と口腔の健康

スローガン 健口で健康！

目標：市民が歯と口腔の健康に関心を持ち、適切なケアができています

現 状

歯と口腔の健康は、生活習慣病の予防だけでなく、食べる喜びや話す楽しみを保つために重要であり、生活の質に大きくかかわります。

また、歯の早期喪失の防止は、健康寿命の延伸に大きく関係があると考えられ、咀嚼機能は、運動機能や健康感にもかかわり、介護予防（オーラルフレイル予防）においても非常に重要です。

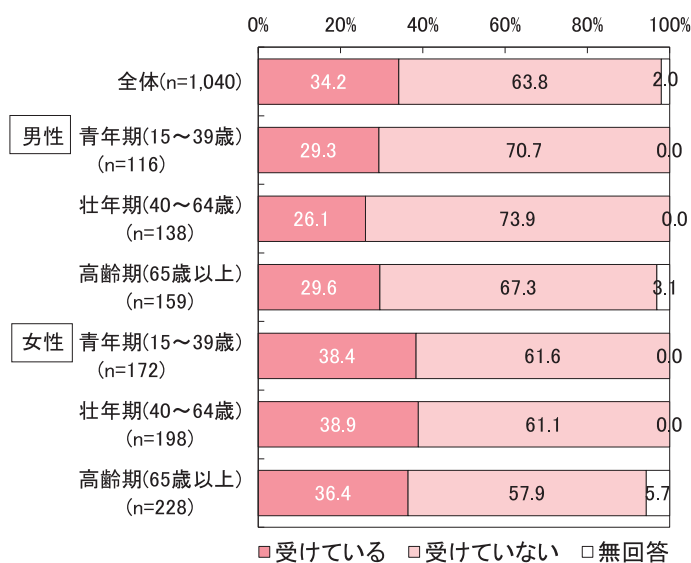
すべてのライフステージを通じて、むし歯や歯周疾患を予防し、よく噛んで食べるといった健やかな口腔機能の獲得と、その健全な口腔機能を維持することが大切です。

アンケート結果によると、定期的に歯科健診を受けている人の割合は34.2%、糸ようじや歯間ブラシを使用する人の割合は42.7%であり、いずれも前回調査よりも上昇しており、かかりつけ歯科医がある人の割合も72.5%となっています。

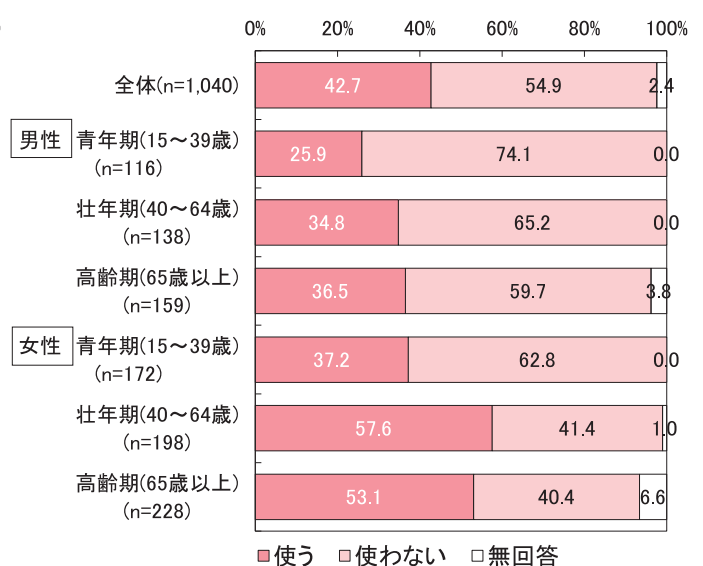
しかし、男性や若い年齢層では、糸ようじや歯間ブラシを使用する人の割合、口の健康維持のために心がけていることがある人の割合ともに低くなっています。

また、本市における健診では、う歯のない3歳児は増えていますが、噛まない・飲めない等の口腔機能の課題があがっています。

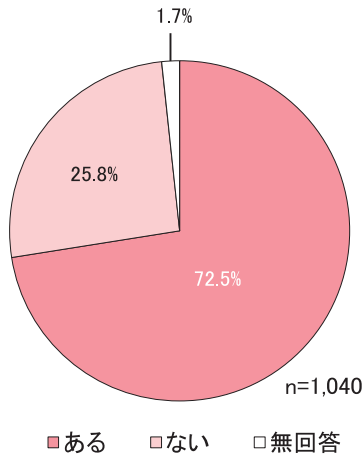
[定期的な歯科健診の受診
/性・年齢別]



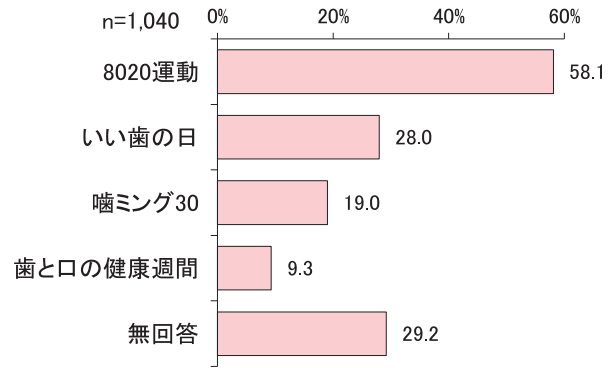
[糸ようじや歯間ブラシの使用
/性・年齢別]



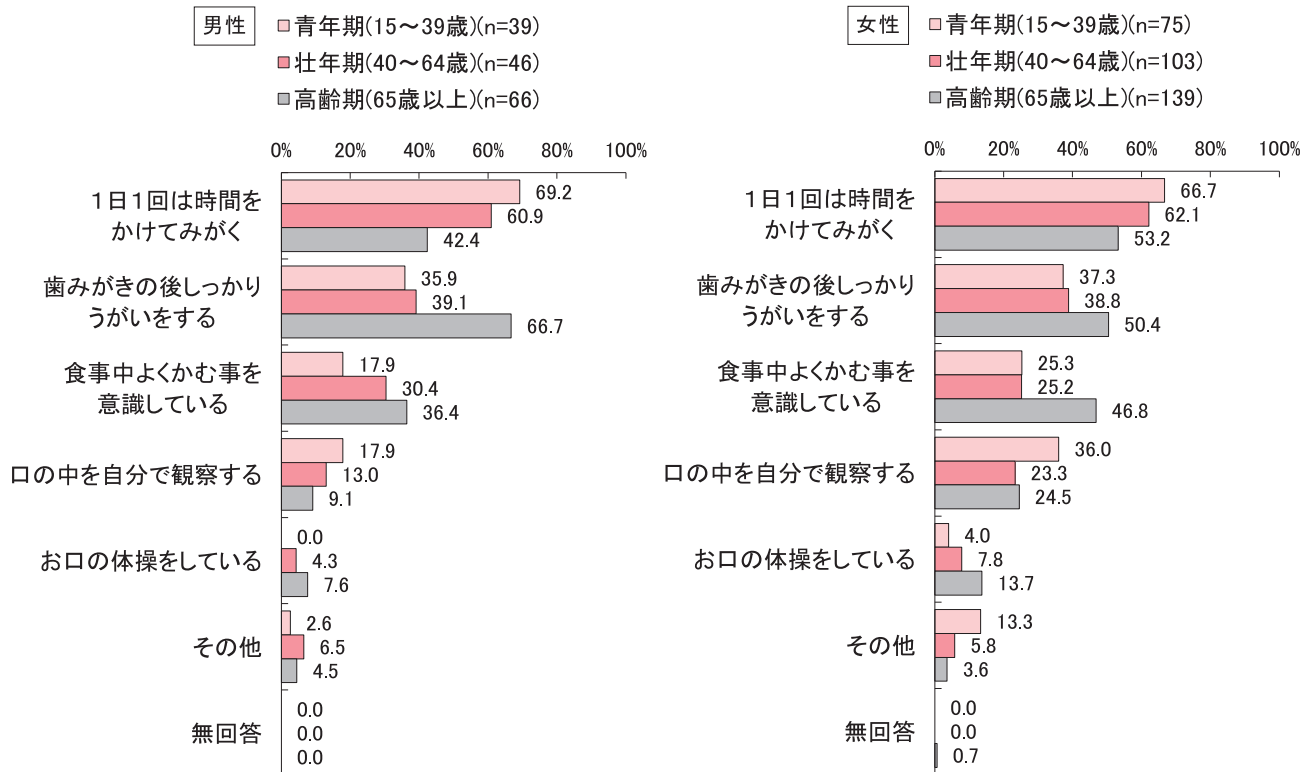
[かかりつけ歯科医の有無]



[知っている取組]



[口の健康維持のために心がけていること/性・年齢別]



資料:健康に関するアンケート調査(H29)

課題

- う歯のない3歳児は増えていますが、噛まない・飲めない等の口腔機能の課題が多くみられます。
- 定期的に歯科健診を受ける人、歯間清掃用具を使用する人、口の健康維持のために心がけていることがある人の割合は、男性や若い年齢層で低くなっています。
- 「8020運動」^{はちまるにいまる}、「噛ミング30」^{かさんまる}等の歯と口腔の健康に関する取組は十分に周知されていません。

今後の取組

(1) ライフステージに応じた歯科保健の充実

(全世代)

- 一人ひとりが自らの歯科保健行動や生活習慣を見直し、適切な歯科保健行動につながるよう普及啓発を行います。
- かかりつけ歯科医をもち、定期的に歯科健診を受ける等、継続的な口腔管理の必要性について普及啓発を行います。

(妊娠期・乳幼児期)

- 妊婦歯科健診を実施し、妊娠期からの歯と口腔の健康づくりの啓発を行います。
- 子育て相談や乳幼児健診において、個別指導や口腔機能向上の啓発を行います。
- 地域子育て支援センター、保育所・幼稚園等の関係機関と連携し、歯と口腔の健康づくりを支援します。
- フッ素塗布助成事業を実施します。

(学童期)

- 小・中学校において、定期的な歯科健診を実施し、三次市歯科衛生連絡協議会と連携し、小学校で歯みがき指導を行います。

(青壮年期・高齢期)

- 個人が歯と口腔の健康づくりに取り組むことができるよう、成人式や各種講座等で歯間清掃用具（歯ブラシ、糸ようじ、歯間ブラシ等）の使用方法的普及啓発を行います。
- 節目年齢歯科健診を実施し、定期歯科受診につなげます。
- 歯と口腔の健康が、糖尿病をはじめとする多くの生活習慣病や介護予防（オーラルフレイル予防）にも深くかわり、心身の健康に大きく影響することについて、各種講座や出前講座等で啓発を行います。

(2) 8020運動の推進・強化

- 三次市歯科医師会や三次市歯科衛生連絡協議会等の関係機関と連携し、8020運動を推進します。
- 健康寿命の延伸のため、歯の早期喪失の防止に向けた口腔機能の維持・向上について普及啓発を行います。

目標指標

指標		実績 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	目標値設定の根拠
う歯のない 3 歳児の割合	3 歳児	85.3% (平成 28 年度)	90.0%	国の目標値を参考
歯みがきのとき、糸ようじ、 歯間ブラシを使用する人の 割合 (健康に関するアンケート)	15 歳 以上	42.7%	50.0%	
定期的に歯科健診を受け る人の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳 以上	34.2%	40.0%	
う歯のない 12 歳児の割合	12 歳児	62.2%	65.0%	国の目標値を参考
8020 運動を知っている人 の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳 以上	58.1%	80.0%	
かかりつけ歯科医を持って いる人の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳 以上	72.5%	80.0%	県の目標値を参考
節目年齢歯科健診受診率	年度の 対象者	—	18.0%	県内同様事業実施市 町の受診率を参考



4 タバコ・飲酒

スローガン やめようタバコ！減らそうお酒！

目標：市民が、タバコとアルコールが健康に与える影響を理解し、禁煙・受動喫煙防止と適正飲酒に取り組みます

(1) タバコ

現状

本市の標準化死亡比においては、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の値が全国、広島県よりも高くなっています。

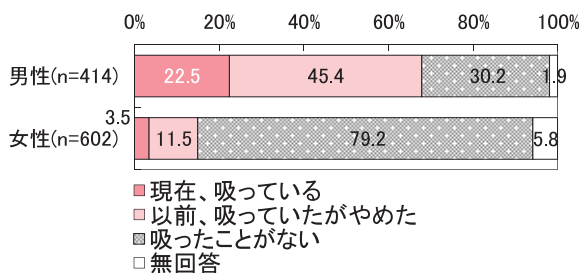
タバコは、がん、循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、周産期の異常等の原因となります。さらに、受動喫煙によっても健康被害がもたらされます。

アンケート結果によると、現在喫煙している人の割合は、男性で 22.5%、女性で 3.5%であり、吸っている人のうち、機会があれば禁煙に取り組みたいという意向がある人の割合が 46.6%となっています。

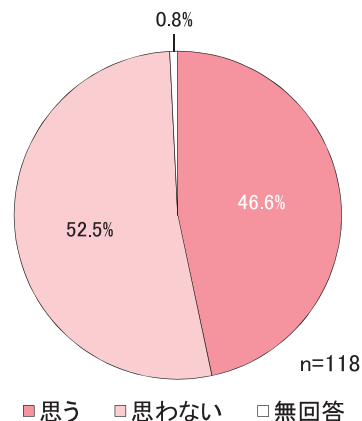
一方、タバコが健康に与える影響の認知度は、肺がん、ぜん息・気管支炎、妊娠・胎児への影響で高くなっていますが、心臓病、脳卒中、歯周病、胃かいようでは低くなっています。

さらに、市内公共施設の敷地内全面禁煙の実施率は増加していますが、国の調査では、飲食店や遊技場、路上等での受動喫煙の経験がある人の割合が高くなっています。

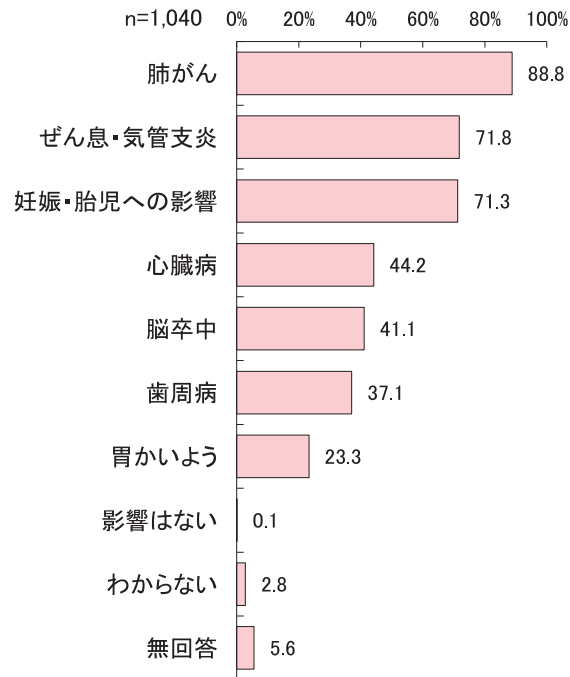
[喫煙の状況/性別]



[禁煙の意向/現在吸っている人]



[タバコが健康に与える影響について知っている人の割合]



資料：健康に関するアンケート調査(H29)

課題

- タバコが健康に与える影響について知っている人の割合は、脳卒中、歯周病で上昇していますが、いずれの項目も目標値には達していません。
- 妊婦の喫煙率は低下していますが、目標値には達していません。
- 市内公共施設の敷地内全面禁煙の実施率は増加していますが、目標値には達していません。

今後の取組

① タバコが健康に与える害の啓発と禁煙の推進

- すべてのライフステージにおいて、タバコが健康に与える害についての正しい知識の啓発を行います。
- 母子健康手帳交付時や乳幼児健診時に、喫煙が健康に与える被害についての啓発を行います。
- 小・中学校では、保健の時間に、喫煙が健康を損なう原因となることについて、具体的な資料を用いて指導します。また、低年齢からの喫煙は特に害が大きく、未成年の喫煙は法律によって禁止されていることについて指導します。
- 禁煙の意思のある人へ、禁煙相談や医療機関等の情報提供と支援の強化を図ります。
- 世界禁煙デー（5月31日）に合わせ、関係機関と連携した啓発を行います。
- 呼気中の一酸化炭素濃度の測定による啓発を行います。

② 家族や人が集まる場所での受動喫煙防止の推進

- 「三次市受動喫煙防止対策ガイドライン」に基づき、市内公共施設の敷地内全面禁煙を推進するとともに、関係機関と連携し、飲食店等に「禁煙」、「分煙」の表示を徹底するよう啓発を行います。
- 子どもや妊婦のいる家庭内や車内において受動喫煙防止に努めるよう、啓発を行います。
- 事業所において、利用者だけでなく従業員に対して喫煙ルールを決める等、受動喫煙防止対策が進められるよう、啓発を行います。

目標指標

指標		実績 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	目標値設定の根拠
タバコが健康に与える影響について知っている人の割合 (健康に関するアンケート)				
肺がん	15 歳以上	88.8%	95.0%	県の目標値を参考
ぜん息・気管支炎		71.8%	80.0%	
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)		-	50.0%	
妊婦・胎児への影響		71.3%	80.0%	
心臓病		44.2%	80.0%	
脳卒中		41.1%	80.0%	
歯周病		37.1%	80.0%	
胃かいよう		23.3%	80.0%	
喫煙者のうち、禁煙に取り組む意思のある人の割合 (健康に関するアンケート)	20 歳以上	46.6%	60.0%	
市内公共施設の敷地内全面禁煙の実施率		81.3%	100%	
妊婦の喫煙率		3.5%	0%	
育児期間中の両親の喫煙率	父親	乳児健診 32.6%	20.0%以下	国の目標値を参考
		1 歳半健診 30.6%		
		3 歳児健診 31.0%		
	母親	乳児健診 1.9%	1.5%以下	
		1 歳半健診 4.4%		
		3 歳児健診 3.6%		

(2) 飲酒

現状

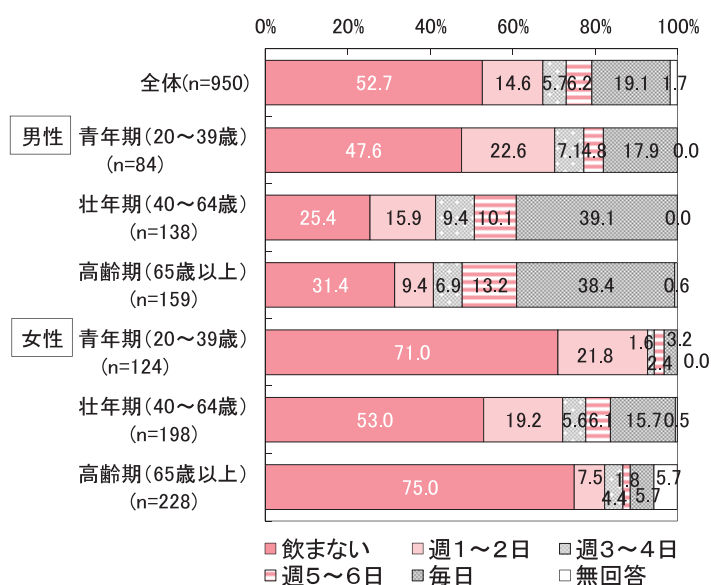
多量飲酒は、アルコール依存症やアルコールに関連した精神疾患等の健康問題、飲酒運転を含めた社会問題にかかわりがあります。

未成年者の飲酒は、精神的・身体的な発達の過程に悪影響を及ぼします。また、妊娠中の飲酒は、胎児へ悪影響を及ぼすといわれています。

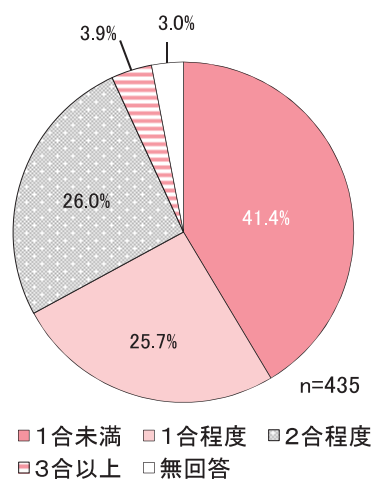
アンケート結果によると、毎日飲酒する人の割合は19.1%、飲酒する人のうち、多量飲酒（3合以上）をする人の割合は3.9%となっており、毎日飲酒する人の割合は男性の壮年期、高齢期で約4割となっています。

一方、適度な飲酒量を理解している人（節度ある飲酒量を1合程度と回答）の割合は36.6%となっています。

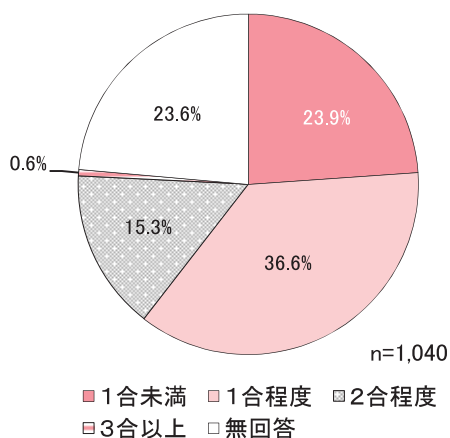
[飲酒習慣/飲酒習慣のある人
・性・年齢別]



[飲酒量/20歳以上]



[節度ある飲酒と考える量]



資料:健康に関するアンケート調査(H29)

課題

- 多量飲酒（3合以上）する人の割合は減少していますが、多量飲酒者への対応が必要です。
- 適度な飲酒量を理解している人の割合は低くなっています。

今後の取組

① 飲酒と健康，適正飲酒に関する知識の啓発

- 多量飲酒，未成年者および妊産婦の飲酒等の不適切な飲酒を防止するため，飲酒が健康に与える影響と，適度な飲酒量の啓発を行います。
- 成人式やアルコール関連問題啓発週間（11月10日～16日）に合わせ，適正飲酒に関する啓発を行います。
- 小・中学校では，保健の時間に，飲酒が健康を損なう原因となることについて，具体的な資料を用いて指導します。また，低年齢からの飲酒は特に害が大きく，未成年の飲酒は法律によって禁止されていることについて指導します。

目標指標

指標		実績 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	目標値設定の根拠
適度な飲酒を知っている人の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳以上	36.6%	80.0%	
多量飲酒(1日3合以上)者の割合 (健康に関するアンケート)	20 歳以上	3.9%	3.0%以下	国の目標値を参考
未成年の飲酒率 (健康に関するアンケート)	15～19 歳	0%	0%	

5 地域の環境づくり

スローガン 自分も地域も健康に！

目標：個人の健康づくりを地域全体で支える仕組みをつくります

現状

市民一人ひとりの健康は、社会経済的環境の影響を受けることから、健康を支える環境を整備することが重要です。

地域のつながりは健康に影響することが報告されており、地域に応じたソーシャルキャピタルの醸成が必要です。

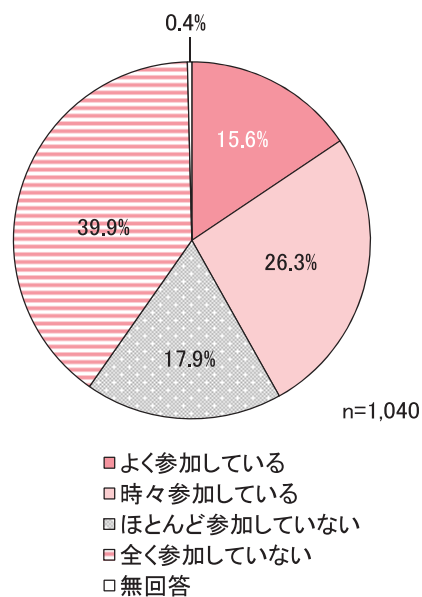
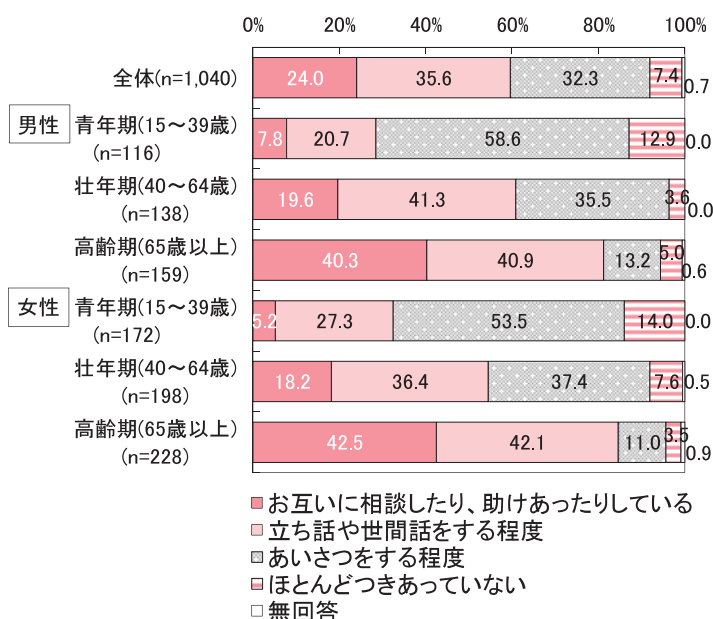
本市においては、地域で健康づくりを支援する健康づくりサポーター、ウォーキングマイスター、食生活改善推進員を養成するとともに、ウォーキングや体操等の活動を地域で自主的に行える環境を整備してきました。

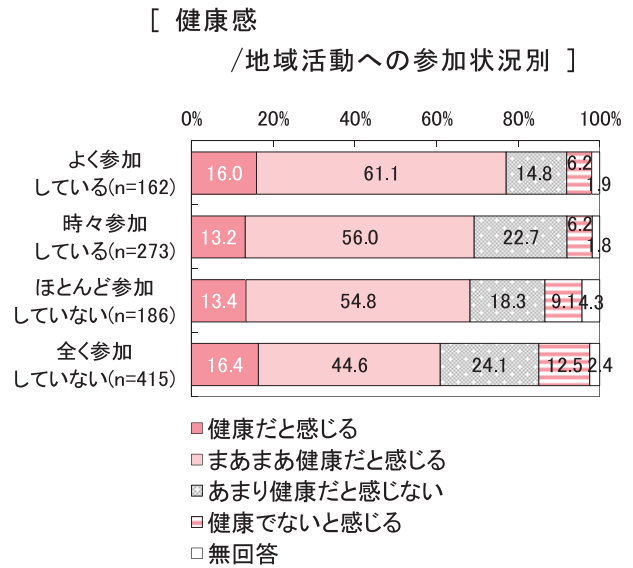
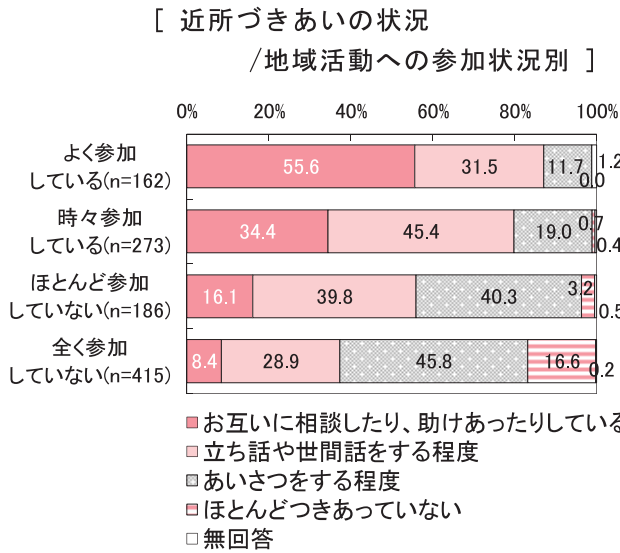
しかし、アンケート結果によると、近所の人とお互いに相談したり、助けあったりしている人の割合は24.0%、地域での活動に参加している割合は41.9%であり、いずれも前回調査よりも低下しています。また、近所の人とお互いに相談したり、助けあったりしている人の割合は低い年齢層ほど、低くなっており、男女ともに青年期では1割に満たない状況です。

一方、地域での活動に参加している人ほど、地域とのつながりは深く、健康だと感じている人の割合が高くなっています。

[近所づきあいの状況/性・年齢別]

[地域の中で楽しめる会や活動への参加状況]





資料：健康に関するアンケート調査(H29)

課題

- 近所の人とお互いに相談したり、助けあったりしている人の割合は低く、前回調査よりも低下し、特に青年期で低くなっています。
- 地域の中で楽しめる会や活動に参加している人の割合は低く、前回調査よりも低下しています。

今後の取組

(1) 地域の健康づくりを支える担い手の育成と連携

- 地域の健康課題を、地域の健康づくりを支える担い手と共有し、健康づくりの取組を推進します。
- コミュニティの中で健康づくりを担う人材の養成や育成を行い、地域での健康づくりに取り組みます。

(2) 身近な地域における市民主体の健康づくりの展開

- 地域の色々なつながりを基盤に、多様な活動主体と連携し、声かけや支えあうことで、健康に関心のない人も主体的に健康づくりに取り組むことができるよう支援します。
- 健康づくりボランティアによる健康情報の声かけ（健診の受診勧奨、市が主催する事業や自主企画する行事の参加者募集等）が行えるよう支援します。
- 地域の人とのつながりにより、孤立することなく役割をもって暮らすことができるよう、関係機関との協働による取組を推進します。

目標指標

指標		実績 (平成 29 年度)	目標値 (平成 35 年度)	目標値設定の根拠
近所の人とお互いに助けあっていると思う人の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳以上	24.0%	65.0%	国の目標値を参考
地域の中で楽しめる会や活動によく参加している人の割合 (健康に関するアンケート)	15 歳以上	15.6%	25.0%	国の目標値を参考

